

# 井戸端だより

発行日： 2013.6.24

発行： ぐらしの学習会



## も く じ

- ・ぐらしの学習会会報  
『井戸端だより』デジタル化される . . . P. 2
- ・蝶のくる庭 (ジャコウアゲハ4月~6月) . . . P. 3
- ・短歌 5首
- ・例会報告 4月・5月・6月 . . . P. 4~7
- ・言葉の力 . . . P. 8~9
- ・青森・秋田への旅 (2013.6.3~5) . . . P. 10~14
- ・綾 旅 . . . P. 15~23
- ・雑感 . . . P. 24~30
- ・愛媛新聞記事 東温ガイド2冊 . . . P. 31
- ・お知らせ 編集後記 . . . P. 32

## くらしの学習会会報『井戸端だより』デジタル化される

東温市中央図書館の担当の方から、お電話をいただきました。生憎留守で、嬉しいお知らせはうちの留守番電話に入っていました。「井戸端だよりの1号から80号までのデジタル化ができました。お確かめください。」というものでした。

早速お礼に図書館に出かけましたが、今度はその方がお休みで、お会いできませんでした。その後、転勤で他に移られたと聞きました。結局お礼は直接言えませんでした。この場を借りて、感謝の気持ちを伝えたいと思います。本当にお世話になりました。そして、ありがとうございました。後任の方、これからもよろしく願います。

話は昨年12月にさかのぼります。くらしの学習会20周年を記念して発行した80号記念号をS・Kさんが図書館に届けてくれました。その折、その担当の方から今まで発行した会報すべて図書館で保管してくださるというお話をいただきました。その方法は会報をすべてデジタル化して恒久保存するというものでした。

このことは81号の井戸端だよりでも書きましたが、その方からのお電話は、図書館でのそのデジタル化作業がすべて終了し、インターネット上で『井戸端だより』が実際に読めるようになったことを意味するお知らせ電話だったのです。

さっそく会員に知らせました。ある会員は、海外にいる友だちに会報を送っていましたが、その手間が省けると言ってお喜びました。ある会員は、入会当時の自分の投稿文をさっそくインターネット上で読んで、その時の自分を思い出したと言っていました。

会報は今まで通り発行し続け、毎回図書館に届けます。それを今後さらにデジタル化してもらうこととなります。ただ、デジタル化の作業はまとめてしているようで、すぐにはデジタル化されませんので、会報は会員には今まで通り毎回手渡しまたは郵送でお届けします。でも、前の記事をご覧になりたい場合、ざっと振り返ってみたい場合などは、ぜひ検索してみてください。

検索方法は以下の通りです。

東温市中央図書館のホームページ⇒とうおんデジタル資料館⇒郷土資料⇒井戸端だより⇒  
検索したい号数へ

日本中、世界中どこからでも検索できます。時代は変化しています。細々と続けて来た活動記録が永久保存されどこにいても見られる・・・何だか恥ずかしいような誇らしいような気持ちです。

今後とも『井戸端だより』をよろしく願います。

(T・H)

蝶のくる庭 (ジャコウアゲハ 4月～6月)



蝶の来る季節を心待ちにしていた。

ジャコウアゲハを楽しんでいたご近所のOさんが、昨年の秋でウマノスズクサヲ育てるのをやめたため幼虫・蛹がいなくなった。我が家に少しいた蛹が、冬を過ごし4月15日1頭羽化した。4月末までは2～3頭飛んできていた。庭のあちこちから芽を出し始めたウマノスズクサに産みつけた卵を毎日数えていた。孵化しているのを見つけ安心していった。ところが1cm程に成長した幼虫はいつの間にか姿を消している。ウマノスズクサから移動し、どこか見えない所で蛹にまで成長してくれていることを願っていた。6/13現在2つの終齢幼虫が見えるのみ。

暗い気持ちで「井戸端だより」の原稿を書いていると、庭にいる夫が「黒いのが飛びよる」と声をかけてくれた。急いで庭に飛び出す。棒樫にジャコウアゲハの雄が止まっている。ひらひらと近くに寄って来て挨拶をしてくれた。あ～～よかった。

2013. 06. 13 (S.K)



短歌五首

沢蟹を幼子見付け目玉たて

ハサミを上げて身体は逃げに

カリカリに沢蟹未く唐揚げに

他の山菜と共に喰むわれ

わが夫(つま)はよろずあるうちひと仕事

終えたる顔で手を洗ふかを

この河の真鯉と共に古鯉

流れにとまり川の字におよぐ

砂防ダム水溜まりたる山側に

泳に下れぬモクスガニ見ゆ

(A・N)

## 4月例会報告

4月13日(土)松山市北条方面へメンバー6名で4月14日まで開催されている「えひめ工芸作品展」を見るため堀江にあるミウラアート・ヴィレッジへ出かけた。

県内で活動する工芸作家13人の作品を集め、陶芸・竹工・染色・木工・銅版レリーフなどの作家の個性あふれる工芸作品の数々が紹介されていた。菊間の瓦土を使った個性的なオブジェ、児玉高次・日南子夫妻が在住する久万高原町の木材を中心に使い木工部分と塗り塗りの共同作業で仕上げた木の暖かみを感じる「彫紋長椅子」、金属の硬さを感じさせない柔らかな曲線でメルヘンなモチーフや別子銅山など地元の情景を描いた作品、色鮮やかな「ろうけつ染め」作品、個性豊かな砥部焼作家達の60点の作品を楽しんだ。常設展示もロダン・ムーア・岡本太郎など著名人の作品も見ることができ、二階にはミウラグループの創業者・三浦 保氏の経歴の紹介や書の展示スペースがあり、ミウラートクラブ絵画展なども開催されていた。

屋外ギャラリーには三浦 保氏の陶版画やストーン・サークルなどの彫刻が展示され、側にあるため池からの気持ちのよい風や庭園の緑を楽しむことができた。

その後、ランチの予約をしてあった欧風料理「シェ・タチバナ」へ。海辺にあるレストランで、窓からの景色は春の陽射しが穏やかな海面を輝かせ鹿島を望む素敵な場所だった。メニューは、

- ・オードブル 鯛、鳥肉、ちりめんやひじきのマリネ、サラダ添え
- ・スープ きゃべつのクリームスープ
- ・メイン ハンバーグのマデラ酒ソースピンクペッパーのせ ライス&パン
- ・デザート プリンのラズベリーソース、チーズケーキ コーヒー&紅茶

窓からの景色も料理の美味しさを引き立てるスパイスになって素敵な景色と共にお洒落な料理を楽しんだ。

食事後、sa.kさんの妹さんが北条市内でピアノの先生をされていて演奏を聞かせて頂ける事になりお宅を訪問した。通された二階のレッスン室にはグランドピアノ。お年?を感じさせない力強い生演奏は、優雅な午後のゆったりとした時間を楽しませてくれ(演奏曲は春らしいフラワーソング、森山

直太郎の桜、童謡…) 気さくなお喋りも楽しい方でお茶を頂きながら楽しい時間を過ごさせて頂いた。

最高のお天気の下、午前中は芸術を目と心で感じ、美味しいランチでおなかを満足させ、午後は音楽で耳と心を楽しませる事ができとても贅沢な一日だった。車の運転をし連れていってくれたHさんありがとうございました。

(A. II)

### 5月例会報告

5月7日(火) 10時からHさん宅に於いて活動会員5名での例会を行った。今回は綾町在住Oさんから提供された鳥類の写真をどのような形でパネル展示をするかについて話し合った。

まず標題は「東温市の身近な鳥たち～冬から春編～宮崎の綾町とくらべて」  
展示場所と日程は2013年8月5日(月)～8月11日(日) 川内公民館ロビー  
2013年9月8日(日)～9月14日(土) 中央公民館ロビー  
の2か所で実施することに決定をし、東温市の広報「とうおん8月号」に告知の掲載を行うことにした。

鳥類の写真について、パソコンを見ながらでは具体的に形にするのは難しいと判断、前回の蝶のパネル展の時のように写真にして作り上げることにし、次回までに S.Kさんが写真にきてくれることになった。

pm 1時すぎ迄話し合い次回5月14日(火)に集まることを決め、お開きとなった。

この後、Hさんと私は会場予約のため中央公民館へ、担当の人が外出中だったので再度訪れることにし、気になっていた東温の自然の本の出版がどうなったのかを知るため東温市役所へ。案内の人に尋ねてもよく分からない、商工会へも行き尋ねるとあれは東温市が発行するので市役所2階の「産業創出課」を紹介してくれたので再度市役所へ。右往左往した結果、白形毅史氏「写真・編集・構成・デザインによる「東温の自然」と「東温街道紀行」の2冊組の本が出来上がっていた。それを見せてもらってホッとした。今、配布先について検討中とのことだった。私たちは入手できるのだろうか???  
もう一点、愛媛大学の県外からきている学生の皆さんが発表した東温市を紹

介したものについては発表しただけで冊子の形になったものは無いらしい事も分かった。残念な気がしたのは私だけだろうか???

再度中央公民館を訪れ会場予約の確認を見届けてから、この本について気に掛けていたくれていたMさんの住む「ケアハウス幸楽」へ。残念ながら外出中だったのだがロビーで暫く待つことに。Tさんとも合流し帰ろうとしていたその時、タイミングよくMさんが帰って来たので施設の見学をさせていただくことになった。エレベーターで最上階の7階にある食堂へ。東西南北すべて窓になっていて東温市内 360度が見渡せる景色は素晴らしいものだった。夕日の頃には瀬戸内海が綺麗に見えるそうで、その景色を眺めながらの食事は最高の贅沢だと感じた。この後、私たちはMさんの個室を訪問。

皿ヶ峰を含む山並みが望める個室はトイレとミニキッチンが備えられ一人での生活には十分な広さ、怪我をするまでは広々とした場所での生活を満喫されていたMさんには物足りなさがあるかも知れませんが、東京在住の一人娘さんもここでの生活に安心されたことだろう。いろいろご馳走になりお喋りの花を咲かせ、4時過ぎお暇をした。(A.M)

## 5月例会報告Ⅱ

5月14日(火) 10時からHさん宅に於いて鳥のパネル展の作業を5名参加で行った。プリントされた写真を並べ変えながら写真選びをし、足りないものを綾町のOさんにメールで連絡をすると暫くして返事が。今、ミヤマキリシマを見るため外出中だそうで分かる範囲の答えをもらった。その場所では陣時雨が聞こえているとのライブ情報などもあり、九州はもう夏近しの時期を迎えているようだった。大体の形を決め、次回までに用紙を用意し作業のつづきをすることになった。次回は5月28日(火) 10時からHさん宅で作業を行うことにし、この日を6月例会とすることになった。

この日「東温の自然」と「東温街道紀行」がHさん宅に届いていて、早速見てみることに。『井戸端便り77号 2月例会報告』にある講演会で見た写真(皿ヶ峰のブナ林の四季や咲く花々・滑川溪谷・白猪の滝・井内の棚田の四季・希少な動植物…)がふんだんに載せられていた。丁寧な説明と白形氏らしいコメントそして美しい写真、ワクワクしながらページを進める。ゴー

ルデンウイークにHさんがご主人と皿ヶ峰に登った際に見た花のこと、P93に掲載されているブナ林を描いたものがHさん宅に飾ってありその絵と本を並べてみてみたりしながら話は尽きなかった。持ち歩くにも調度良いサイズ「東温街道紀行」を持ち、東温市を見て歩くのも楽しいのではないだろうか。いずれにせよ、良い物が出来上がって本当に良かったと思う。(A.N)

### 6月例会報告

5月28日(火)10時からHさん宅に於いて5名参加で少し早めの6月例会を行った。パネル作りの作業のつもりだったが、前回の例会5/14からs.kさんがコツコツと形作ってくれていて完成状態の写真パネルが1~4月分の4枚美しく仕上がっている。いつもながら責任感の強さには脱帽である。集まっての作業になるとなかなか前に進まない現状が想像でき、自分流で作製してくれたようだ。パソコンでのやり取りでの作業には私は協力できないが、外野での協力は惜しむ事なく頑張るのでどうぞ宜しく。5月の写真パネルも綾町のOさんからの5月の写真の到着を待ち、持ち前のセンスと責任感にお任せしてしまうことになりそうだ。年末のカレンダー製作と同様、S.Kさんと綾町のOさんとの努力の賜物のパネル展になりそうだ。東温市の鳥の写真を出してくれるO氏の展示部分の内容はO氏にお任せし、後は6月24日(月)川内公民館での「井戸端便り82号」印刷時、細かな会場作りの概要を現地で具体化していく事になった。

大体の作業を終え、お菓子と紅茶でプレイクタイム。暫くお喋りをし、午後、外出の予定をしているのでTさんの車で昼食を取るため松山市内へ。

道後での昼食を終え、目的地の「万翠荘」へ。「井戸端便り」へ短歌を寄せてくれているA.Nさんが参加しているアートグループ森林(もり)「第12回作品展」が「万翠荘 謁見の間」で開催されるとのお知らせを頂いて、出かけることになっていた。会場には、A.Nさんの短歌十首のほか、絵画、写真、木彫仏像が展示されていた。残念ながらA.Nさんにはお目に掛かれなかったのだが、不動明王の立像と座像、救世観音像を出品された会場当番の方から興味深い話を聞かせて頂くことができた。趣味の世界を満喫され生き生きとした人生を送られている方々の作品展だった。ポツポツ小雨降る中、帰路に就いた。(A.N)

## 言葉の力

「衣食足りて礼節を知る」いつの頃に出来た格言か定かでないが、この言葉が揺らいでいる。私達が育った昭和の初期は、戦争もあって貧しさを絵に書いたような生活だった。衣はおゆずりや母親の手造り、食べ物はお粥に蝗に芋のつると、今思い出しても悲しい。それでも友達は皆で仲良く遊び、隣近所は助け合って生活していた。

時は流れ、お金がはいるようになると、衣服はまるでファッションショーの様に着飾り、次から次へと買ってはゴミとなる。食べ物はファーストフードやコンビニで、いくらでも食べられ、家庭でもレストランのごとく並べられ、余れば全てゴミになってしまう。衣食は十分に足りているが、「礼節」の言葉は見捨てられ、毎日のニュースは事件、事故は法令を守らなかつたり、違反したりと相手の気持ちなど考えない、自分の都合を考えた行動ばかりである。事ある毎に上からの苦言があるが、何の効果もないのは何故だろうと思ってしまう。

そんなある日、買い物に行き、包装をしてもらっている時、机上の角に置かれたメッセージカードに目が留まった。



喜びは悲しみを超えられる  
感謝は憎しみを超えられる  
小さな喜び 小さな感動  
心の中にためてゆこう

聖書に似ていたので、私は、「あなたはクリスチャン？」と尋ねると、「いいえ。この言葉は、私がある事で落ち込みうつ病になりそうな時、心から出てきた言葉です」と言われた。こんな美しい言葉を生み出す方の心を思うと、神様に会えたみたいと感動する私に、「よかったら差し上げます」と引き出しから数枚のカードを出してくださった。



怒りは正義のために  
涙は感動のために  
笑顔は感謝のために  
悔しさは明日の喜びのために



なにげない言葉であるが、どれ一つとっても私達の生活の中で生かす事が出来る言葉である。

今の世、苦しい事や悲しい事が多く皆一人で悩んでいる。彼女の様に一人で前向きに考えうつから抜け出事が出来る人も居れば、職場に出られなくなり、家に閉じ込めり社会に出ることもできない出来ない人も多い。こんな時、暖かい言葉や優しい言葉を掛けてあげる人がいれば、楽になるのではないかと思う。

私は自分の感動を一人でも多くの人に分けてあげたくて、半紙に筆字で書き、病気の友達や姉妹、近所の人にもらってもらっている。

あなたは世界に一人だけ

誰かと比べることはない

桜、梅、桃、季の人生だ



夫を亡くし落ち込んでいたが、聖書の言葉で立ち直ることができた。しかし、今でもまだまだ涙の出ることもあるので、彼女の言葉がすべて私の体の中に吸い込まれるように受け入れられ元気になれた。これから十年は生きたいと思っているので、苦しい時、悲しいときには、彼女の言葉を思い出して生きていこうと思っている。

(SA K)

奈良 美智 (なら よしとも) 作  
(表紙の女の子 も )



## 青森・秋田への旅 (2013. 6. 3～5)

6月3日、11:45 青森空港へ到着。雪を被った八甲田山(標高1584m)が目飛び込んでくる。3日間お世話になるジャンボタクシーにワクワクしながら乗り込む。絶好の観光日和。湿気のない涼しい風。この地方の梅雨は短く7月に入ってからになるとか

高校時代の同級生6人の団体。新居浜から参加のFさんは早朝の5時に家を出発、西条・今治からの友人と共に松山空港へ、松山・東温からもそれぞれが集り、松山発7:50のJAL便で羽田空港を経由し(羽田から一人合流)青森着。

空港を出発して少し走ると、前方に雪を被った津軽富士の岩木山(標高1625m)が見え出す。有名な2つの山、岩木山の方が高いとは意外。走行中、右になり左になり前になり後ろになり2つの山が見え隠れする。人々はこれらの山に守られ恩恵を受けていることがよくわかる。区画整理された広い平野、田植えが終わったばかりの田んぼは岩木山からの清水で満たされている。機械化された稲作。

まず、2006.7に開館した青森美術館へ。広い敷地に白亜の建物。館内に入ると広い空間、高い天井に圧倒される。その3方の壁面いっぱいにはシャガールの絵、ロシア出身の彼が亡命先のアメリカで描いたバレエ「アレコ」の舞台背景画。ふと、バレエが好きだという孫娘の踊る姿を浮かべてみた。

狭い廊下を行くと奈良美智の展示室。1959年青森県弘前市生まれで画家・彫刻家・ポップアート作家。一風変わった女の子の不釣り合いな顔と眼の位置、心の内が伝わって来るその表情。自分に重ね合わせて見る。それは自分自身では見えないものの、気持ちの変化によって少なからずこんな眼をしているにちがいない。役者さんは眼の演技が大事と言う、改めて眼の表情について興味を持った。

大・小の真っ白いオブジェの「あおもり犬」を観たあと、展示室の奥まったところに高さ8.5mに及ぶ巨大な犬のオブジェ「あおもり犬」には圧倒される。3面が高い塀、青天井の中に優しげであり悲しげでありの表情、大きいのだが力強さは感じない。隣接している遺跡の様に土の中から発見され、まだ半分埋もって、待っているイメージで作ったと言う。何かを待っている、立ちあがって行こうとしている姿、これで納得した。

**棟方志功生誕110年記念展示場**へ。青森県出身で画家・版画家・板画家。鍛冶屋の息子から身を起こし、18歳の時にゴッホのひまわりに出会い「我はゴッホになる」と精進し、あの印象に残る数々の作品を送り出したのはあまりにも有名。浮世絵、

ゴッホ、岡本太郎の絵や心意気と通じるものを感じた。

各展示場へ移動するのに迷路の様な作り、斬新な建築そのものにも興味を引かれた。2000年、設計コンペで最優秀作品に選ばれた青木淳氏（1956年生まれ）の設計。隣接する三内丸山縄文遺跡の発掘現場から着想を得て設計し、ここで展覧会が催される毎に土や床や壁は部分的に壊され補修されることにより、年を経てやがてパッチワークのような味が染み出ていくことを期待しているという。な一る程。

金木町津軽三味線会館へ、金木町は津軽三味線発祥の地。生演奏を30分聴く。因みに三味線の皮は犬の皮を使っているとか。

すぐ近くにある国指定重要文化財の太宰治記念館「斜陽館」へ。赤レンガの塀に和洋折衷が美しい太宰治（本名津島修治）の生家。明治の大地主だった父、津島源右衛門が1907年に建てた入母屋造りの大邸宅。11人兄弟姉妹の6男として13歳まで暮らした。太宰治の略年譜や家系図をみると、また彼の作品を読み返したいと思う。

五所川原立佞武多の館へ。高さ38m、地上6階の館のねぶたホールには高さ22mの立佞武多が3台展示されている。その内の1台、台座の上部は「鹿島大明神と地震鯨」のテーマ通りの鹿島大明神が怖い顔をしてあらん限りの力を振り絞って地震鯨をやっつけようとする姿が、見上げる私達に覆いかぶさってくる。4階まで上がり、スロープを廻りながら全体像がみられる。それにしても何とも巨大で迫力満点で色彩豊か。この3台が祭りの期間中市内を練り歩く。3年に1度順番に創り直すそうだ。「ねぶた祭り」は七夕の日の灯籠流しが起源と言う説がある。台座に書かれてある「雲漢」は「天の川」という意味。青森県内では大小様々なねぶた・ねぶたが合わせて約30市町村でつくられているという。この立体的な立佞武多は戦勝の祭り、弘前ねぶたは戦への出陣の祭りで扇型、鏡絵と見送り絵（正面と裏面）に絵が描かれている。また掛け声も違うとか。

高揚した気分で立佞武多の館を後にし、本日の宿泊先の鱒ヶ沢グランメール山海荘へ。まず温泉で体をほぐす。露天風呂へも入り、部屋から眺めた日本海に沈む夕日（19:05）に感動。お魚・海藻類を主にした食事を堪能し、20:30からロビーでプロの津軽三味線の演奏を聴く。

## 6月4日（2日目）

8時にホテルを出発。ミニ白神と十二湖を散策する一日。

車は日本海沿いの五能線と交差しながら走る。道路の海沿い側には1m間隔で、高さ3m近くの鉄の骨組が連なりその下には何か置いてある。雪の降る時期になるとそ

れを蛇腹式に上に伸ばし、道路の雪囲いにする。吹雪くと1m先の車も見えなくなると言う。厳しい東北の季節を想う。

ミニ白神。白神山地は、1993年12月に日本初の世界遺産（自然遺産）として登録され、全世界共通の財産となった。ミニ白神は世界遺産の白神山地から約20km離れた所にあり白神山地系に抱かれている。明治以降、土地は国、生えている木は地元民という「官地民木」の全国的にも珍しい形態で今日まで保護されてきている。

くろもり館で入山料を払う。杖を借りてブナ林へ入って行く。枯葉を踏みしめる足裏の何と心地いいこと。遊歩道には高低差はなく快適。ガイドは車の運転手さん。新緑の間からはこもれびがそそぎ、木々を渡る緑風が頬をなでる。頭上からはエゾハルゼミの鳴き声が降ってくる。小箱があり聴診器が入っている。ブナの木にそれをあててみる。「ザー」と水を吸い上げる音がすると言うが確信は出来なかった。熊の爪痕のあるブナの大木のそばに、凸レンズの直径60cm程の大鏡が備え付けてある。これはブナの実を食べに来た木の上の熊を見つけるためのものでは？と想像してみるが、実際にその鏡に熊が写っているのを見たら卒倒すると思う。」遊歩道の両脇には幾種類もの高山植物がある。派手さはなく花は小さいが葉は大きい。同じような葉・花に見えても傍でよく見ると微妙な違いがある。この微妙な違いこそが今を生きること、生き残っていく上で大切と言う事がよくわかる。

源流の森の湧きつばでは、染み出た水がちよろちよろと流れている。この僅かの水が海にそそぐ道のりを想像する。少し水の染み出た木道を通り、遊歩道を一巡した。最期の羽響の池ではアカショウビンの甲高い澄み切った鳴き声が響いている。視界が開けた所にある水飲み場、蔭の葉つばに白神の湧水を受け、喉をうるおす。少し汗ばんだ体の隅々にまで沁みわたって来る。

次は深浦町北金ヶ沢の日本一のイチヨウ、幹回り22m、樹高31m、樹齢1000年以上と言われている国指定の天然記念物。別名垂乳根のイチヨウと言われるだけあって何本もの気根・乳垂が大きな幹回りを作っている。今は葉つばが落ちている時期、紅葉した姿がみたいもの。日本一と言われるイチヨウの木が青森県にもう一ヶ所あるというのもまた奇妙な話。

日本海の荒波にもまれ風の強い千畳敷海岸を過ぎ、昼食場所の椿山。一帯がリゾート地、ヨーロッパ風の建物が広い敷地に点在している。そのなかのレストランカメラリアで海鮮丼の昼食。その中に「サケ科のイトウ」があった。その「イトウ」の養殖池へ行く。日本最大の淡水魚で、かつて幻の魚といわれていたという。

十二湖へ行く途中に2箇所、ごつごつした茶色の山肌がみえる。1704年の能代地

震噴火により、岩肌が現れ、アメリカのグランドキャニオンを想わせる景観から日本キャニオンと呼ばれている。現在観光地として有名になった十二湖は、地震噴火による崩山（くずれやま、標高 939.9m）の崩壊で塞き止められた川から形成されたのではないかとされている。木々を通して見える十二湖を散策。アオゲラが木をつついて「カツカツカツ」と忙しそうな音も響いてくる。最大の関心場所の青池、透明度が高く湖面に浮かぶ落ち葉が少し多過ぎの感ではあるが、光のさす方向・季節による変化も自然の妙、その対比にも感動する。そういえば森の物産館でみた青池の「ブルーのインク」そばの紙にはしっかりと青い文字が書かれていたが池の水が青く染まっているのか、青く見えるのかお店の人に聞いておけばよかった。十二湖庵茶屋で沸壺の池の名水で点てた抹茶をいただくと心身共に洗われたような気がした。

本日の宿泊先、黄金崎不老不死温泉へ。建物は継ぎ足した横広い1階建て。問題の海辺の露天風呂。海岸の岩場を100mほど降りたところによしずで囲いをした簡素なものがみえる。「寒い」「寒かったと」風呂上がりの人は震え声で上がって来る。露天風呂（岩風呂）から日本海に沈む夕日を見たい一心で覚悟を決めたのは4名。本日の日の入りは19時2分。18時過ぎから待っていた。お湯も少し暖かくなり鉄分が多く茶色のお湯に浸っていた。みち潮なのか湯船の傍近くまで海水がちょろちょろと寄せて来る。肝心の夕日は厚い雲に覆われ見えなかったが、時折さす薄日のグラデーションは美しかった。

## 6月5日（3日目）

9時出発 日本海に突き出た男鹿半島へ。まず寒風山（355m）回転展望台から見る360度のパノラマに目を見張る。眼下には先ほど通ってきた八郎潟干拓地や3つの火口跡が見える。南北に延びた海岸線が美しい。山頂では数人がパラグライダー楽しんでいる。

八郎潟の歴史が気になりインターネットで調べてみた。

《もともとは海と繋がった汽水湖であったが、八郎潟防潮水門によって締め切られており、淡水湖になっている。琵琶湖に次いで日本で2番目の広さだった八郎潟では、戦後、食糧増産を目的として干拓工事が行われ、20年の歳月と約852億円の費用を投じて約17,000haの干拓地が造成された。工事は1957年（昭和32年）に着工して、1967年（昭和42年）から入植を開始した。全体の事業は1977年（昭和52年）に竣工した。干拓工事によってできあがった土地に全国から公募された入植者

が入植し、1964年(昭和39年)9月15日に「干拓式」と題する式典を吉武自治大臣、赤城農林大臣、秋田県知事らを招いて開催したのち、10月1日に秋田県で69番目の自治体として大潟村が発足した。最終的には、米の増産を目指していたが、減反政策によって失敗した計画という見解もある。特に環境の方面では、湿地の喪失を嘆く向きもある。もともと湖の底だった土地は、ヘドロというやわらかい粘土でできた土だったため、大きなトラクターやコンバインが土に埋って動かなかつたり、ヘリコプターで田んぼに直接種をまいても失敗したり、たいへんな苦勞をしたが、今では、米、麦、豆、カボチャ、また、大変美味しいと評判のアムスメロンやリンゴも作られるようになった。》

男鹿水族館GAO。男鹿半島の西の端にある。高さ8m、水量約800tの男鹿水族館最大の水槽に40種、2,000匹の魚たちが悠々と泳ぎ迫力満点の出迎え。館内には400種 10,000点の生き物を展示していると言う。3階までの展示場。久しぶりに見る本格的な水族館十分楽しめた。特にエイが水槽の傍に来て白い腹側をみせ、ひれをヒラヒラさせながら、こちらを眺めている様子は人間の顔とそっくり、人なつっこい笑顔、口をパクパクさせているのは、何か話をしたいのかと思え・・・何とも愛らしく美しい。

いよいよ今回の旅の最終目的地。なまはげ館・男鹿真山伝承館。

なまはげは恐ろしい形相の鬼が、わらみの、わらぐつをつけ大きな出刃包丁を手に「ウォー、ウォー」と奇声をあげながら家々を練り歩く。「泣く子はいないか」「なまはげ者はいないか」と、12月31日の大晦日の夜、男鹿半島のほぼ全域に亘って行われる伝統的な民俗行事。男鹿真山伝承館は、男鹿地方の典型的な曲家で、築100年以上前の民家を移築し、観光客の為に再現している。突然表戸を叩き、玄関でシコを踏み、家中をまわるその迫力に身がすくむ。主人がお酒を進めながら、怠惰を戒め厄災を払うなまはげとの問答は、怖い中にもユーモアがあふれている。

全ての日程を終えジャンボタクシーは一路秋田空港へ。予定通り羽田を経て23時前には帰途についた。

3日間の旅、美しい新緑の中での森林浴、東北地方の文化にもふれ、元気を沢山頂いた。出発の1週間前に夫が尿管結石で夜なかに緊急入院のハプニングもあり、直前まで悩んだ末の参加だったが夫や友が背中を押してくれたお陰で実現できた。企画、天候、ドライバーさんの人柄、そして何よりも仲間のお陰でこの上ない楽しい旅となった。そして東北地方が身近に思えるようになった。(S・K)

## 綾 旅

2010年11月、宮崎県の綾町へ引っ越された「くらしの学習会」メンバーのOさんを訪ねて3月30日（土）～4月1日（月）二泊三日の日程でメンバー3名（Hさん、Tさん、私）で出かけた。

<3/30> Hさんは前日から仕事で別府へ行っていたので日豊本線臼杵駅で合流することとし、Tさんと私で東温市を出発。

松山駅で昼食の駅弁（Tさんは初の松山駅名物醤油飯、私は初のあなご寿司弁当）を購入し8:08発宇和海5号に乗車。たわいもない話をしながら8:58八幡浜駅着。

タクシーで八幡浜港へ。

乗船手続きを済ませ宇和島運輸フェリー9:40発に乗船。テーブルスペースに席を取りのんびりと船旅時間を楽しむ。Tさんは井戸端便り81号を持参し読んでいる間、私は船内にあったフリーペーパーを見ながら九州の地の情報収集。窓から見える景色はうっすら霞んではいたが佐多岬に設置されている風力発電機や細長い半島を眺めながら揺れを感じることもなく船は進んでいく。11時前には早めの昼食（朝食が早かったの？）を済ませ臼杵下船後、列車の時間まで1時間半ほどあるので臼杵の町並みを散策することにし船内で見つけた臼杵絵地図を見ながら寄り道先を決める。佐多岬半島が見えなくなるとまもなく九州の地が見え始め12:05 臼杵港着。

二泊分の荷物を持ち港を後にまずは臼杵城址方面へ。道すがら産直物産店を発見、早速入店。旅は始まったばかり買い物はグッと我慢（大分産の乾燥きくらげ買ったかったな！）臼杵城址では桜祭りの真っ最中、満開の桜を眺めながら観光総合案内所サーラ・デ・うすきへ。臼杵は戦国時代、明やポルトガルの商人が行き交う国際的な商業都市として栄え、当時の大砲「国崩し」のレプリカや南蛮船の模型などが展示されている。毎年11月に行われる「うすき竹宵」の展示もされている。中庭に出ると木造の長屋に囲まれた公園があり、風情のある喫茶コーナーもあって心地好い空間になっている。旧種葉家長屋門が裏口になっていて、周辺には石畳の道や白壁の商家、寺院が立ち並ぶ昔ながらの町並みがあり、ゆっくり散策する時間が欲しい場所だった。

列車の時間もあるので後ろ髪を引かれつつ臼杵駅へ。

13:38 臼杵駅発にちりん13号に乗車。4号車でHさんと合流。3時間弱の列車の旅。Hさんのタブレットでタイへ出かけた時の写真を見せてもらいながら旅の話聞く。車窓からの景色は海辺側の席だったので、穏やかな豊後水道から白波がたつ日向灘につながる海岸線の景色や、通過する駅に咲く桜の散る様も楽しめた。途中、宮崎県のどの辺りか定かではないのだが線路と平行した海辺側に、コンクリートの橋げたを作りその上に数え切れない枚数の太陽光パネルが設置されているエリアは圧巻だった（あの設備でどの程度の発電ができるのだろうか？）こうして午後のゆったりとした時間は退屈する事なく16:22 宮崎駅着。東温市を出発して船や列車の乗り継ぎ時間を含め約9時間30分の時間が経過、綾町まで1時間のバス移動を含めると約11時間の長旅となった。が、楽しい旅でもあったことは間違いない。

改札を出るとOさんが写真を撮りながら出迎えてくれた。一年前大怪我をした様には見えないうらい元気そうでホッとした。立派で明るい宮崎駅ビルを出ると明るい陽射しとフェニックスが南国らしい雰囲気を感じ出している。駅前のバス停から綾町方面行きのバスに乗車。約1時間のバス移動。宮崎神宮や文化施設エリアを通り過ぎ宮崎市内を抜けると、田圃や畑やあちらこちらに点在している古墳のある風景が夕日に照らされほのぼのとした感じ。道端に咲く手入れの行き届いたツツジやシバザクラの花の色が鮮やかに見えるのはなぜなのだろう？一番後ろの座席を陣取りOさんとお喋りに花が咲いた（私たちが降りた後の車中はさぞ静かになったことだろう）。

「綾手づくりほんものセンター」に駐車してあったOさんの車に乗りHさんの運転で5分程の所あるOさん宅へ。早速、Oさん宅の周辺写真をTさんが懸命に撮影。700坪の敷地内には二階建ての本宅・最初に建てた家・作業小屋・木造倉庫の4棟があり、手入れの行き届いた庭や畑の花木には名札が付けられている。私たちが庭を移動する毎に大五郎君が吠えながら右往左往しながら庭から室内に出入りする様子を見ていて、ん？と思うことが。出入り口の引き戸が出入りの度開閉している。自動ドアが設置されていたのだ。彼等は戸は開けるが閉めてはくれない、虫がたくさんは入ってくるので虫対策のため設置したのだそうだ。杏ちゃんは時折ガラス戸越しにチラッと姿を



見せるが出ては来ない、大五郎君より高めの吠える声が杏ちゃんなのだろう。Oさんお気に入りの小径は家の裏庭のような近い場所にあり、短いこんもりとした木々のトンネル。私たちがいても鳥たちが帰ってくるかの様に木々に止まりにきていた。散策をしていると6時のチャイムが。宿の時間の事もあり明日は9:30頃のお迎えと決めOさんの車を借り受け今夜の宿「綾川荘」へ。

ナビの操作が旨く行かず持参の地図を見ながら立て看板を見つけつつ、道端に咲くシバザクラや夕刻の風景を楽しみながら無事到着。道すがらには見事な桜並木があり、残念ながら花の時期は終わっていたが満開の頃は見事な風景なのだろうと思う。6:27フロントでチェックイン。6:45に夕食をお願いし304号室へ。荷物を納めさっそく二階の食事処へ。木の温もりを活したインテリアの個室の席が準備され、綾の旬の食材を活した家庭的な味付けでヘルシーで食べやすいメニュー（鶏と野菜の煮物・鮪とカンパチの刺身・青菜の白あえ・桜豆腐・鮎の塩焼き・チキン南蛮・味噌汁・御飯）間食をしていなかったのビールを頂きながら食が進む。焼きたてアツアツの鮎の塩焼きは臭みもなく美味しかった。ボリュームたっぷりのチキン南蛮でおなかは満腹。ホールでは合宿の学生や子供連れの家族客が大勢で賑やかだった。

部屋に戻り一息ついてから、Tさんは部屋風呂、Hさんと私は大浴場へ。川に面して大きく窓を設けた開放感あふれる浴室らしいのだが残念ながら外は真っ暗で川面を眺めながらの入浴とはならなかった。が、翌朝6時から朝風呂ができるので入浴したHさんTさんは景色を楽しめただろうか。雑談をしたりテレビを見たりしながらゆったりと時間を過ごし0時すぎ就寝。枕や布団が変わりなかなか眠れなかったのは3人とも一緒だったようで、寝返りを打ったり携帯の時計を見たりとぐっすり眠った時間は短かったようだった。

（カジカガエルの鳴き声や救急車の音は聞こえたが後は静寂）5:30には皆起床。身支度をしたり朝風呂に行ったりとそれぞれの時間を過ごした。帰り支度を済ませ7:30の朝食まで周辺の林を20~30分散歩をした。普段の生活の中ではこのような時間を過ごすことはないので旅行という非日常を楽しんだ。桜がたくさん植えられ満開の季節は見事な花見スポットになるのだろう。ホテルの里でもあるようだ。水辺にはカモがたくさんいて道路にまで出てきて事故の心配をした。ひんやりと清々しい空気を一杯吸い込み頭はスッキリ。

朝食をとるため食事処へ、和朝食（焼魚・アツアツベーコンエッグ・切り干し大根きんぴらなど・味噌汁・御飯）をしっかりと頂いた。フロントで会計を済ませ部屋へ帰り8時すぎに「綾川荘」を後にした。

<3/31>Oさんとの待ち合わせ時間まで借り受けた車で「馬事公苑」へ。車で約10分このエリアも桜がたくさん植えられていた。大きく立派で美しい花時計がお出迎え。コースをゆっくりと馬が走っている。点在した厩舎には35頭程の馬がいるそうで、11月には競馬のイベントが行われ賑わうそうだ。朝早くても日曜日とあって観光バスが到着。ノルディックウォークスタイルの中老年の方々が降りてきた。MITO KANKOの表記、茨城から来られたのだろうか？

私たちはこの後「綾城」へ。

今からおよそ680年前、足利尊氏の家臣で細川小四郎義門がこの地方に下向を命じられ、その子義遠は収納使として綾を領有し綾に居館（山城）を構え綾氏と称しこの地を治め、室町時代八代將軍義政の頃日向の国の一大豪族の伊東氏の家臣となり綾城も伊東氏48城の一つとなった。1577年伊東氏が島津氏に破れ島津氏の支配下となる。1615年江戸幕府の一国一城の制度により綾城は廃止となり島津氏の地頭がおかれた。現在の綾城は昭和60年東日本でははじめての戦国初期城楼建造物として構築した。城館内は歴史資料館として綾の歴史の歩みを振り返ると共に、温故知新さらに明日への飛躍、発展の礎とするものである。

（綾城 パンフレットより）

木造2層建物見やぐら付の構造で1、2階は資料館、3階は天守閣、派手さはないが趣のある城だった。勾配がきつい階段で最上階まで上ったのはHさんだけだった。

「綾城」と隣接した「綾国際クラフトの城」へ。

昭和時代の文化財として後世に名を残すようにと心掛け町内の職人たちの手で町内に自生するカヤ・ケヤキなどの名木をふんだんに使い一つひとつ丹念に作り上げ、手づくり工芸品の展示をはじめ各工房の案内、工芸教室、デザイン新製品の研究開発を進める一方で広く国内外の優れた

工芸品の展示も考えている場所。使う人の身になって製造される心のもった絹織物、碁盤などの木工品、竹細工、陶器、ガラス工芸品などが展示販売されている。

この日は大型オートバイのイベントがありたくさん集まっていた出店などもあり賑わっていた。Oさんとの約束の時間が近付いたのでメールをするとOKとのこと、お迎えに行く。

Oさん宅から車で約20分「綾の照葉大吊橋」へ。2011年10月に新しい吊橋に架け替えられ日本一の照葉樹の森を空中散歩ができる場所（長さ250m、高さ142m、巾1.2m）Hさんと私で渡ってみた。私たち以外には一家族が渡っているだけでスタスタ歩けたし揺れもほとんど感じない状態だったが、たくさんの方が一緒だと揺れがきつくなるのかも。私たちは余裕で渡り切れた（以前、九重“夢”大吊橋を渡った際、観光客の行列で中央部分では多少の揺れがあった）日本一の規模を誇る綾の照葉樹林をのぞめる絶好のスポットで、橋を渡った先には約2kmの自然遊歩道があり森林浴に最適。この綾川流域の照葉樹林 3,245畝を含む約14,500畝の地域は2012年7月「綾ユネスコエコパーク」として登録されている。その後隣接した「照葉樹林文化」へ。自然と共生を続ける中で生み出された、多くの生活用具や照葉樹林に生きる動植物を展示し、照葉樹林文化を詳しく説明している場所。駐車場の側には木工細工や農産物加工品を販売する土産物屋があり、それぞれ好みの物を購入した。

吊橋を後にOさん宅でお茶を頂くことになりご自宅へ。綾の木材をふんだんに使った素敵な住宅で、コーヒーとお気に入りの蒸し菓子を頂いた。

ご自宅を後に「酒泉の杜」へ。蔵元にあるお酒のテーマパークで、焼酎、ワインなどの試飲をはじめ宮崎の食も楽しめ、温泉や宿泊施設も併設されている。プロが選ぶ土産物施設として全国2位の評価を得ていて、たくさんのお土産があり迷ったが荷物にならないものを購入した。

ここには、ガラス工芸作家 国の「現代の名工」黒木国昭氏の工房がある。綾切子・金彩象嵌（九谷焼き風）新世紀ロマン（ガレ風）等のシリーズ作品が展示スペースに所狭しと並べられている。どれも高額で手は出ないが目の保養になった。工房も外から見学ができ、数人がかりでの吹ガラス作品と格闘している光景を見ることができた。Tさんは自分用にブルーのネックレス

を私は金彩の箸置きを購入した。

昼食を取るため車で約5分「フクトミファームガーデンアヤ」へ。田園風景の中にポツンとお洒落な建物が目的地。綾町は宮崎県を代表する有機農業の町として知られる。伝統の農業を受け継ぎ、米の生産を中心に生産、加工、販売の一貫した新たな農業ビジネスを行っている農業生産法人が展開しているレストラン。パスタ、米粉パンのサンドウィッチ、米粉のケーキを中心にしたメニュー。昼時で少し待ったが、アボカドとエビのサンドウィッチと有機人参ジュースセットを頂く。もっちりさくっとした米粉パンはとても美味しく、にんじんジュースも癖がなく飲みやすかった。ガラス越しに見えるのどかな風景も調味料になっているのかも。この農業法人は、宮崎県との連携で東日本大震災で被害に遭われ働く環境を無くした方の働ける環境を提供（男性4名女性2名を受入れ）している。

この後、綾町の中心部へ。「綾手づくり ほんものセンター」へ駐車をし、「綾の手紬染織り工房」へ。国の「現代の名工」秋山眞和が主宰し養蚕から織りまでの工程を一貫して手作業で行う。染めは藍染・貝紫染をはじめとした草木染めが主。店内には藍染めの大人からベビーまでの衣類、ストール、インテリアなどが並んでいる。藍染めは身に付けていると虫除けの効果があるそうだ。結構なお値段が付いていたが、以前から藍染めのミニ鯉のぼりが欲しかったので予算オーバーではあったが購入した。現在、我が家の玄関で大きな口を開けて泳いでいる。

この後、「綾ふれあい館」や「男山」（雛飾りの男の子版）を見させてもらい「ほんものセンター」へ。日向夏・タケノコ・大袋入りの生姜・クレソン・エシャロット…様々な農産物、手作りの菓子類、加工品など数多く並んでいる。明日もう一度立ち寄ることにし、少し早めではあったが今夜の宿「ホテリア レストラン 綾の食卓」へ。「綾川荘」よりも下流にあり綾北川のせせらぎが聞こえそうな場所で、雨水、薫炭や生ごみ乾燥処理でガーデン全体が循環型リサイクル環境。有機無農薬で育った野菜や果物を食材としてレストランで提供している。ガーデンから続く入り口から入るとガーデンが見えるレストラン、その奥がホテルになっている。チェックインをしOさんと共に2階の201号室くぬぎ林へ。木をふんだんに使い落ち着きのある部

屋でくつろげそうである。お茶を飲みながら1時間ほどお喋りをし、Oさんを自宅までHさんとTさんが送りに行き、私は留守番をすることにした。30分ほどでお二人が帰ってきた。時間もたっぷりあったのでガーデンを散歩し、部屋に戻りディナーまでにお風呂に入ることに。内風呂は檜風呂、露天風呂は岩風呂でゆっくり手足を伸ばしゆったりリラックスできた。

19時からワインを飲みながらディナーを頂いた。メニューは下記の通り。

- ・アミューズ3種 (きんかんのコンポート・タコとアスパラのマリネ・  
イワシとエシャロットのビネガー風味)
- ・オードブル (オマールエビと焼きパプリカのマリネ)
- ・スープ (カブのクリームスープ)
- ・メイン (縞ブタのソテー&鯛・ムール貝・スカンピのグリル野菜添え)
- ・サラダ・パン・コーヒー
- ・デザート (イチゴのグラタンクリームチーズ添え・アイスクリーム)

ワインを頂きながら、香川シェフが食花、ハーブや果実、こだわり生産者の肉類、日向灘からの鮮魚等食材の味を求めた料理やサービスに大満足。もう一組の宿泊客は子供連れの家族で私たちのディナー時間には食事を終えていたので、貸し切り状態での約1時間半おしゃべりをしながら美味しいディナーを楽しんだ。

部屋へ帰り、それぞれの時間をゆったりと過ごす。昨晩は余り睡眠が取れていないこともあって0時前には床に就いた。私はそこそこ眠れたのだが、さて、後のお二人はどうだったのか？Tさんも昨晩よりは寝むれたそうだが、Hさんは普段と変わらず3時間程度で目が覚めていたようだ。

< 4/1 >身支度をし、帰り支度を済ませてから朝食まで庭の散歩をし食卓へ。朝食のメニューは、ヨーグルト (日向夏のジャム・プラムのジャム・蜂蜜添え) ジュース・サラダ・トマトと卵 (2ヶ) のオープン焼き・焼ベーコンとニョッキと焼き野菜・パン・コーヒー・メロンで、たっぷり頂いた。

チェックアウトをし車に荷物を積み込み「綾の食卓」の入り口をバックに三人での記念写真をスタッフの方に撮ってもらい、シェフやスタッフの皆さんに見送られこちらを後にした。

0さんとの約束時間まで1時間程あったのでもう少し綾を楽しもうと、もう一度「馬事公苑」へ。馬場コースを望む観覧席に上がると厩舎から出された馬たちが小さい柵に区切られた中に1、2頭づつ入れられ、草を食んでいる。柵に2頭で入れられている馬は恋の季節を迎えているらしい様子が見て取れた。穏やかな陽射し、木々を渡ってくる気持ちのよい空気に癒され、0さんとの約束の時間も近付き「馬事公苑」を後にし待ち合わせ場所へ。

ガソリンを満タンにし「綾手づくりほんものセンター」へ駐車をし0さんと一緒に「ほんものセンター」でお買い物。00さんのねりくり（芋もちにきなこをまぶした物）00さんのあくまき（あくまきと言えば鹿児島イメージだがこちらの物は柔らかく蕨餅に近い触感）との0さん情報に従い好みものを購入。納入業者の人からも気さくに話し掛けられたりしてすっかり地元になじんだ感あり。私は最後まで迷ったクレソンの大束を2束新聞紙で包み持ち帰り、ほぼ一週間美味しく頂いた。

10時のバスで0さんと共に宮崎駅へ。私たちが自慢の綾牛を食べることが出来なかったことを気にしていた0さんは私たちのために「筍御飯」の上に綾牛のソテーを乗せたミニ弁当を持たせてくれた。本当に気配りの人である。宮崎駅で列車に乗る前に皆で早めの昼食（今、鯉が美味しい時期なので、塩とワサビで食べる「鯉のたたき御前」）を頂いた。駅構内で御土産の買い足しをしたり飲み物を買ってホームへ。デザートにと“なんじゃこりゃ大福”（苺と栗と生クリームが入った大きな大福）まで差し入れてくれ、0さんがホームのベンチで粉をこぼしながら頬張る様子を見て皆で大笑い。13:31 発にちりん16号が到着、あたふたと車内に乗り込む。きちんとお別れはしなかった。寂しさが募りウルウルしてしまったかも。ホームで手を振る0さんの姿が見えなくなるまで手を振るのがやっとであった。「また会おうね、お元気で、ありがとうございました！！！」

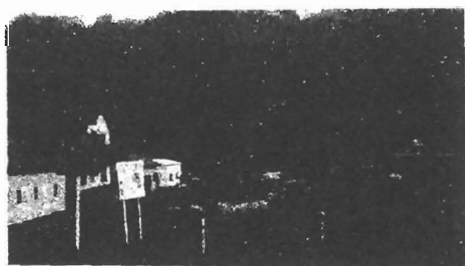
三人は寂しい気持ちを心に押し込め列車内での時間を過ごし16:08 臼杵駅に到着。「臼杵の町並み」を散策する時間はあったが、荷物も多くなりフェリー乗り場でゆっくりすることにし、タクシーでフェリー乗り場へ。桜はまだ満開状態だった。ここで私たちも大きな大福を頂きおなかい一杯。

17:30 発のフェリーに乗船、船内後部にあるソファ席を確保。夕日に見送

られながらの出港、九州の地が遠くなっていく……。暫くして、Oさん心づくしのお弁当を味わう。綾牛は冷めていても柔らかく旨味たっぷり、木の芽ののった筍御飯も美味しく夕食として丁度良い量だった。Hさんはお肉を肴にビールを美味しそうに飲んでた。TさんはOさんに空っぽになった容器を撮影し「ごちそうさま」の写メを送っていた。19:50 八幡浜港着。タクシーで八幡浜駅へ。待ち合い所に座っているとソクソクと人がやってくる。改札を出て20:48 発宇和海26号に乗車、どの席の人も窓側に座り横に荷物を置き平然としている。「すみません」と言い席を空けてもらい私たち三人は通路側に縦に座った。こんなに遅い列車に乗ったことがなかったので乗客の多さに驚いたが、遠距離通勤や日帰り出張でこうした状態は珍しいことではないことをHさんから教えてもらった。21:34 松山駅着。ラッシュのような人の波に押されるように高架橋を渡る恐怖感。膝が悪く荷物の多い私は手摺を持たないと恐ろしくて渡ることができない。なんとか改札を無事抜けることができた。ホッとした。HさんとTさんも無事改札を抜けていて本当に良かった。Tさんのご主人が駅まで車で迎えに来ていて、私たちも一緒に自宅まで送って下さり、とても有り難かった。

こうして私たちの「綾 旅」は無事終了した。

(A. II)



鳥たちの声を求めて

## 雑 感

我が家の庭に、私が待ち焦がれていた、トンボの群が戻ってきました。今年の夏も彼らに守られて、蚊に刺されず無事に過ごせそうです。

卯の花が咲き、ホトトギスの忍び音が遠くで小さく聞こえ始めた頃から、少しずつトンボの姿を見かけるようになっていました。卯の花に代わって、紫陽花が街並みを彩り、ホトトギスの声も大きく、近くなり、カジカガエルや虫たちのコーラスにホテルの群舞も最盛期を迎えた芒種の午後、窓越しにムギワラトンボの大群が見えました。

庭いっぱいには無数のムギワラトンボが飛び交い、上空には中型の猛禽類も数羽翔んでいました。一瞬、南から渡ってきたサシバかと、期待しましたが、解禁された鮎漁のお裾分けを狙う、トビの様でした。

南からのお客様と言えば、立夏の頃、早くもアサギマダラがやって来て、我が家の犬たちと遊んでいました。鼻先を飛び回ったり、背中で翅を休めたり、微笑ましくて暫く洗濯物を干す手をとめて見惚れてしまいました。

裏の小径の木々は若葉を枝いっぱいには繁らせ、両側から精一杯、腕を伸ばして握手しているように見えます。オヒサシブリデス。コトシモイイキセツニナリマシタネ。そんな声が聞こえてくるようです。

繁った葉陰からは様々な鳥たちの歌声が響いてきますが、姿を見せてくれるのはヒヨドリ、ムクドリ、スズメ、ツバメ位です。

梅雨の晴れ間のある日、十数羽のツバメが庭の地面に降り立ち、暫く何事かを相談している風情でした。電線にとまっている姿はよく見かけますが、集団で地面に佇む光景は不思議な空間でした。

畑仕事をしていた夫が、庭を散歩しているキジに出逢ったと興奮していました。近くの畑や河川敷ではよく見かけるキジですが庭にやって来たのは初めてです。

ある朝、ハチだ!!という夫の声に慌てて庭に出てみると、お向かいの大きなカシの木めがけて、空を埋め尽くすほどのハチの大群が羽音とともに集まり、あっという間に枝に大きな蜂の塊が出来ました。ミツバチの分封蜂球です。我が家の庭のシロツメグサにも普段は見られない位多くのミツバチが群がっていましたが、二日目、あっという間に何処かへ去ってしまいました。新しい女王蜂との巣作りに相応しい場所が見つかったのでしょうか。

池にはいつの間にかツチガエルが新しく仲間入りしています。

此方に移り住んで3年目。我家の庭も、少しずつ面白くなってきています。



6月7日、安倍首相は国賓として来日したフランスのオランド大統領と会談。原発や武器開発の分野で協力を強化することで一致し、日本原燃と仏原子力大手アレバ社が、核燃料サイクル関連施設をめぐる技術協力を深める覚書に署名しました。

昨年暮れの衆議院総選挙における自民党の**政権公約**には、小さいながらも、「原子力に依存しなくてもよい**経済・社会構造の確立**を目指します」と書かれています。しかし、政権発足後、成長戦略の柱に原発輸出を掲げる安倍政権は、原発輸出の前提となる協定交渉に積極的に取り組んできました。今春の大型連休にはアラブ首長国連邦(UAE)、サウジアラビア、トルコとの交渉が次々に進展し、5月29日にはインドのシン首相との間の共同声明には「協定交渉を早期に妥結させる」と明記しました。6月には東欧4か国(ポーランド、チェコ、スロバキア、ハンガリー)との交渉が予定されています。

自国でおきた原発事故の処理さえ儘ならないというのに、溜息しか出ません。

特に、インドの場合は、核保有国であり、核不拡散条約(NPT)に加盟していない為、核拡散が懸念されています。しかし、少なくとも、20基の建設計画が有るインドの原発市場は日本を含む原子力供給国グループ(NSG, 48カ国)にとっては非常に魅力的で、2008年、原発輸出を狙う米国主導で、インドが核実験実施を見合わせる事(モラトリアム)などを約束することで、例外的に容認されてきました。

世界中が経済という魔物の前にはなんとか落とすところを見つけて、目を瞑るということなのでしょう。

2011年の福島第一原発事故後、日本国内で原発新增設が望めない10000社ともされる日本の原発関連企業にとって海外からの原発受注は垂涎の的に違いありません。

しかし、現に輸出した原発の機械の不具合によって、多大な損害賠償を請求されている原発プラントメーカーが有ることも事実です。

国内においては、原発プラントメーカーは原賠法4条によって製造物責任法の適用外、とされています。不思議な話です。

現在、日本の原発関連企業にとって、活路とすべきは、“安全に廃炉にする方法”“使用済み核廃棄物の最終処分”の確立です。今まで蓄積してきた世界でもトップレベルとされる原子力に関する知識、技術(トップセールス中の首相の言葉です)の全てを傾注して一日も早く確立して欲しいと切望します。

しかし、5月25日未明に起きた、最高の専門集団とも思える茨城県東海村の日本原子力研究開発機構でおきた事故、および事故後の対応のお粗末さ、2年経った今も増え続ける福島第一原発の汚染水問題、依然として取り出すことさえ出来ない融け落ちた核燃料棒、悪質な復興予算の流用を見ていると、そもそも、日本には原発を造り、維持・管

理することは許されないのではないかと思います。それをよそさまに売ることは論外と言えるでしょう。

現段階で、最終処分出来ない高レベル核廃棄物を産み出し続ける原発を世界中に増やすことは悪である、としか思えません。

4月24日、2015年の核不拡散条約(NPT)再検討会議に向け、スイス・ジュネーブで開かれた第二回準備委員会で発表された共同声明に日本が署名しなかったことにも、憤りを感じます。「いかなる状況下でも核兵器が二度と使われないことが人類存続の利益になる」という表現が、米国の核の傘に守られている、日本の安全保障政策と一致しないというのです。岸田文雄氏は唯一の被爆国である日本の外相であり、被爆地・広島選出です。残念です。

政権発足後、日銀新総裁とともに進めてきた“アベノミクスの三本の矢”の内の、機動的な財政出動、大胆な金融緩和によって、驚くほどの速さで円安、株価高が進み、実感を伴わないまま、世の中は期待感に包まれていましたが、5月23日の大暴落以降、市場は乱高下が続く、不安感が漂い始めたようにも見えます。

6月5日、三本目の矢ともいわれる成長戦略においては、“国民総所得(GNI)”という一度聞いただけでは、年収と勘違いしそうな言葉まで使いましたが、歓迎したのは経団連会長くらいで、あまり経済効果は無かったようです。首相ご自身あまり使い慣れない言葉だったのか、週末の街頭演説では、“年収”とか“個人所得”とかその場その場で言葉が迷走しました。オランダ仏大統領も、日本と中国を言い間違え、通訳の機転で事なきを得たと伝えられています。言い間違いは誰にでも有り得ることです。しかし、安倍首相が言い間違いではなく、意図的に勘違いさせる為に様々な単語を使っているとすれば、許せません。

この所の乱調は、1000分の1秒単位で売買する高速取引(HFT)が原因とも、世界の経済指標やニュースに反応する様プログラムしたコンピューターで自動売買するヘッジファンドが原因とも言われています。全く理解できない世界ですが、“異次元の緩和マネー”が一部機関投資家や企業のもとに吸い尽くされてしまったのは事実の様です。

政府は、新たな市場としてミャンマー、アフリカ諸国への進出を急いでいます。フェアトレードを基本に、相手国の文化を大切に、良きパートナーとしての道を進んで欲しいものです。

信頼構築は個人の間でも、国家間でも最も大切なことだと信じます。

自民党の政権公約には、これまた小さく「原子力の安全性に関しては“安全第一”の原則のもと、独立した規制委員会による専門的判断をいかなる事情よりも優先します」と書かれています。

しかし、現実には、電力会社や原発メーカーのトップらでつくる「エネルギー・原子力政策懇談会」(会長・有馬朗人元文部相)が2月に安倍首相に渡した「緊急提言」づくりに経済産業省資源エネルギー庁がかかわっていたことがわかったと朝日新聞(5/19)が報じています。民間の提言を使って、経産省が原発を動かしやすい環境づくりに動いていると言います。提言は「責任ある原子力政策の再構築」と題し、有馬会長を発起人とする有志(原発プラントメーカー、大手商社のトップ、元経産次官ら29名)が名を連ねています。元経産次官の望月晴文氏(日立製作所社外取締役)は「有志の意見を事務局と私が集約した」と話し、資源エネルギー庁幹部は原子力政策課の職員が提言のもとになる文書を作ったことを認め、提言をつくる会議に課長や職員が出席し、提言をまとめる過程で職員が事務局と電子メールで度々連絡を取ったということです。エネ庁は「打ち合わせのメモを作ったり、資料を提供したりすることは問題ではない」(長官官房総合政策課)と説明したということです。(朝日新聞5/19からの要約)

確かに、言論の自由が保障されているわが国ですから、いかなる提言も自由だと思えます。しかし、公務員が一民間団体に肩入れするのは如何なものかと思うのです。

自民党の原発再稼働推進派による“電力安定供給推進議員連盟”(会長:細田博之幹事長代行 6/7 現在98名)も安倍首相が再稼働に前向きなこともあり動きは活発で、安全性の確認に時間をかけている規制委員会にも不満を募らせています。

原子力規制委員会が原発の新しい規制基準を定めるのは7月18日です。何故、そんなに急ぐのでしょうか。

5月22日、原子力規制委員会は福井県敦賀原発2号機の直下を走る断層を活断層であると断定する専門家会合の報告書を正式に了承し、廃炉になる可能性が大きくなりました。しかし、事業者である日本原子力発電は活断層ではないとする従来の主張を変えず、幾度も原子力規制委員会に対して公開質問状を提出して反発し、追加の調査報告を今月末までに提出するとしています。しかし、規制委員会の結論を覆すことは難しいとみられ、規制庁は日本原子力発電に対して、2号機のプールに有る燃料1700本余の安全性の評価と対策を報告する様求めています。また、6月6日、原子力規制庁は担当者を敦賀市議会に派遣し、活断層と断定した根拠や経緯を説明しましたが、議会からは反発の意見が相次ぎました。市長は規制庁に対して、担当者ではなく、田中委員長本人の説明を求める意見書を提出しています。敦賀原発2基のほか、規制委員会から、「安全に対す

る根本的な考え方をはき違えている」「こういう組織の存続を許していること自体が問題」として試運転再開に向けた準備作業に事実上の中止命令が出ている高速増殖炉もんじゅを抱える敦賀市の経済事情が大きく影響しています。

交付金や税金で抑え込むやり方は、沖縄の構図と全く同じです。基地も、原発も、政府は“迷惑施設”と認めているからこそ、交付金を出すのです。命に係わる“迷惑施設”は作るべきではありません。

原子力規制委員会が原発の新基準を7月に定めるのを受け、北海道、関西、四国、九州の4電力会社が8基の原発について再稼働のための審査を申請する見通しだといえます。これらの原発は放射性物質が外部に出るのを防ぐ「フィルター付き排気（ベント）設備」の設置を猶予されている為、申請を早められるとのこと。これらの原発は事故を起こした福島第一原発の「沸騰水型炉(BWR)」とは異なる「加圧水型炉(PWR)」を使っているため、原子炉格納容器が大きい為、猶予できるということです。

また、原子力規制委員会は6月5日、新規性基準に適合するための工事が完了していても、停止中の原発の再稼働の審査の申請を受け付ける考えを明らかにしました。

原子力規制委員会が骨抜きにならない様、独立性と中立性の維持を期待します。

それにしても、このところ、言葉を生業とする文筆業・弁護士出身の議員、首長のあまりに配慮を欠いたに発言には首を傾げるばかりでしたが、6月13日、復興庁の「原発事故子ども・被災者支援法」を担当する参事官が半年間に亘って、被災地を中傷する傲慢なツイートしていたことが報道されました。不特定多数の目に触れては困る、とい意識すらなかったのでしょうか。しかし、悪びれることなくツイートしてくれたおかげで。本音が見えたこと、彼の職場の空気まで透けて見えたことは良かったのかもしれない。

昨年4月に決定された自民党の「憲法改正草案」を、パソコンで取り出してみました。が、非常に現行憲法と比較しづらいPDFであるうえ、プリントアウトするには大量過ぎて、作為すら感じます。

安倍首相は「国民の憲法判断に参加する機会を得やすくする」として、先ず96条（憲法改正の発議要件）の改正（衆参両院議員の2/3以上を1/2超にする）を参院選の公約に決定する見通しの様です。改憲派にも護憲派にもそれぞれの意見が有るのは当然です。しかし、「発議のハードルを下げるのは裏口入学の様なもの」、と改憲派の専門家からも疑問の声が上がっています。変えたい条文の一つ一つを丁寧に議論することこそが求められると思います。憲法は、権力者を縛るものであること、を肝に銘ずるべきです。

5月のある日、“東温の自然～エコツーリズムブック～”を拝見する機会に恵まれました。以前から、くらしの学習会が何かとお世話になっている白形毅史さんの写真と文を中心に、東温市・東温市商工会が企画し、東温市が発行したガイドブックです。

写真の一枚一枚が素晴らしく、添えられた文は自然に対する優しさにあふれています。

16年間越し、かけがえのない仲間との出会いを得た懐かしい旧重信町。東温市の素晴らしさが余すところなく紹介されています。

東温市以外の友人達にも、見て、感じて、もらいたいと思いました。

早速、東温市と東温市立図書館のホームページを見てみましたが、東温市の平成24年度の予算の資料に、エコツーリズムガイドブック関連事業として予算が計上されているだけでした。そこで、東温市役所に電話して、担当の方のお話を伺いました。

\*来賓の方に配って、東温市の広報活動としている。

\*図書館に数冊置いてある。

\*非売品である。

とのことでした。

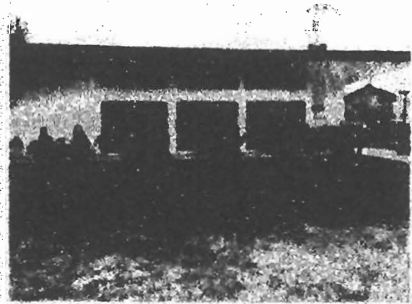
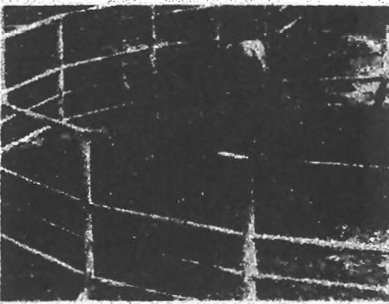
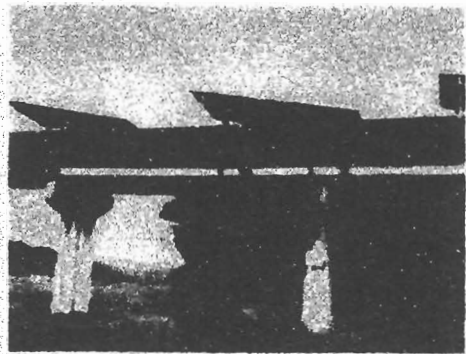
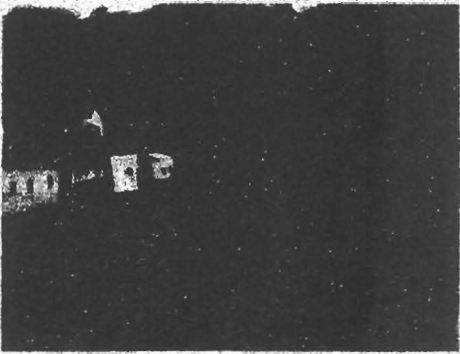
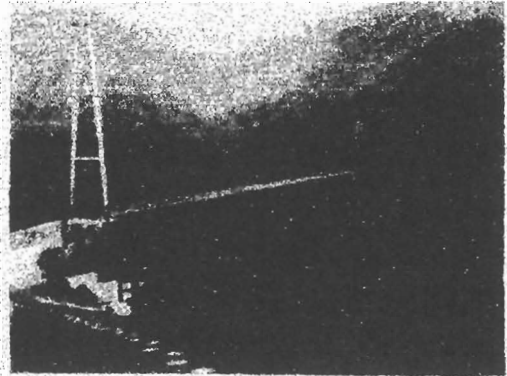
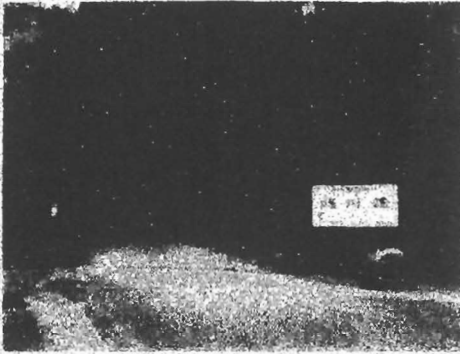
何とか購入できないか尋ねましたが、現段階では予定は無いとのことでした。

東温市在住の方は、この本の存在をどの程度ご存じなのでしょう。せめて、一人でも多くの東温市の方々に見て欲しいと思っています。東温市は、豊かな自然に恵まれ、医療・教育機関が充実し、郊外電車の便がよく、そして何より、私の様な転入者を、ごく自然に受け入れてくれる懐の深い人々。素晴らしい所です。私を見守り、育ててくれた商店街が、これ以上閉店することが無いよう、祈っています。

3月の終わり、イペーの黄色い花が町を彩り始めた頃、くらしの学習会の仲間3人が綾に来てくれました。1年9ヶ月ぶりの再会です。はじける笑顔、何を言っても通じ合う、心地良い時間を共有できました。交通の便の悪い宮崎まで来てくれた仲間の気持ちに感謝です。

梅檀の紫色が青空に映える5月、合歡の木に紅の花が咲き始めた梅雨空の6月にも、お客様を迎え、懐かしい再会の機会がありました。

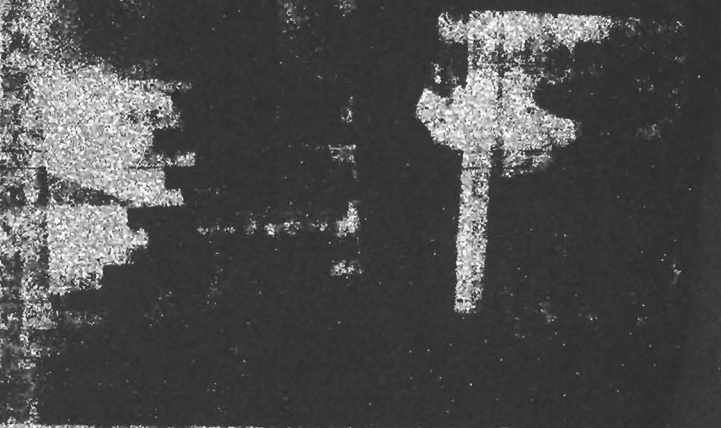
各地から空梅雨のニュースが届きますが、綾は、梅雨らしい毎日です。裏の木立のハゼノキの花も終わり、葉が色づき始めています。庭のあちこちから今年も沢山のネジバナが顔を出し、コムラサキシキブの花が咲き始め、ヤマボウシが大輪の花を沢山咲かせています。何故か、春に咲かなかったコブシに、今頃になって付いた蕾がほどけ始めています。町中で咲き乱れていた紫陽花もそろそろ終わりです。(K.O.)





WIDE EHIME

東温市観光協会が作成した「東温ガイドブック」



# 皿ヶ嶺に甲山映え 有世物や祭り楽し

東温市観光協会が、市内に点在する観光地をカラー写真で紹介する「東温の観光」(A5判、100頁)と、歴史・文化をまとめた「東温の歴史」(A5判、100頁)の2冊のガイドブックを作成した。2冊ともA5判だが、市内の公立図書館等に貸し出ししており、市観光協会に問い合わせることでお借りいただけます。

## 東温ガイド2冊 市が無料配布

「東温の自然」は、東温市の自然環境を詳しく紹介している。また、「東温の歴史」は、東温市の歴史を詳しく紹介している。両冊ともA5判で、市内の公立図書館等に貸し出ししており、市観光協会に問い合わせることでお借りいただけます。

WIDE EHIME

## お知らせ

\* ロビー展を開催します。

「東温市の身近な鳥たち — 冬・春版 —

12 ユネスコエコパークに指定された宮崎綾町の鳥たちと比べて」

第一弾 日時： 8月5日(月)～8月11日(日)

場所： 川内公民館1階ロビーにて

第二弾 日時： 9月8日(日)～9月14日(土)

場所： 中央公民館 1階ロビーにて

\* 東温ガイド2冊発行  東温市産業創出課  
「東温の自然」 「東温海道紀行」 市の図書館で閲覧可能です。  
— 愛媛新聞 6月16日発行より —

\* ぐらしの学習会では、随時、会員を募集しています。

活動会員 2,000円/年 購読会員 1,000円/年

振込先口座番号 (郵便局) ぐらしの学習会 01610-5-21026

問い合わせ先 TEL/FAX 089-964-6956

E-mail : [kt-hayashi@nifty.com](mailto:kt-hayashi@nifty.com)

\* 次回の例会は7月16日(火)午前10:00から 林さん宅にて  
ロビー展の準備、打ち合わせ等

## 編集後記

少しばかりの雨が降った6月中旬、我が家の裏庭に、4羽の小燕がやってきました。その少し前から上空をよく 燕が飛んでいるなあと感じていましたが、まさかの光景が見られる予想は皆無でした。4羽の小燕たちは、地面すれすれに降下し、また、上昇しながら方向転換、狭い庭を全部使って、飛行訓練を見せてくれました。途中、木に止まって休憩をとるものもいれば、急降下、急上昇、方向転換と懸命な練習をやめないものもいます。次の日もアクロバット飛行が再現され、時間が経つのを忘れさせてくれました。あれから、窓越しの彼らの日常を心待ちにする日々です。日毎に高度、降下角度や速さに威力が増し、迫力が出てきています。

8月と9月に、綾町と東温市の鳥たちを比べたロビー展を開きます。身近な鳥たちに会いにいらっしやいませんか。

(M・T)